



# ニッポンのお風呂の魅力ってなんだろう？

風呂文化研究会は、「お風呂は世界に誇れる日本文化のひとつである」と考えています。  
各家庭で毎晩お湯を溜める入浴スタイルは世界でも類を見ません。  
独自の進化を遂げるニッポンのお風呂。  
その魅力をより多くの人に伝えるために、  
わたしたちは“ニッポンのお風呂の魅力”を分析することにしました。

最初のステップは、お風呂の魅力の構成要素の仕分けでした。  
カンカンガクガクの議論の末にまとまったのが、  
この「13のエッセンス」。  
ニッポンのお風呂の魅力は、清潔や癒しに留まらず、  
空間や情緒にまで及ぶ幅広い要素で  
構成されていることがわかりました。

2014年、ニッポンのお風呂の3大メリットであり、お風呂の魅力の基礎となる  
「① 疲れがとれる」「② リラックスできる」「③ カラダがキレイになる」  
という3つの要素について掘り下げました。

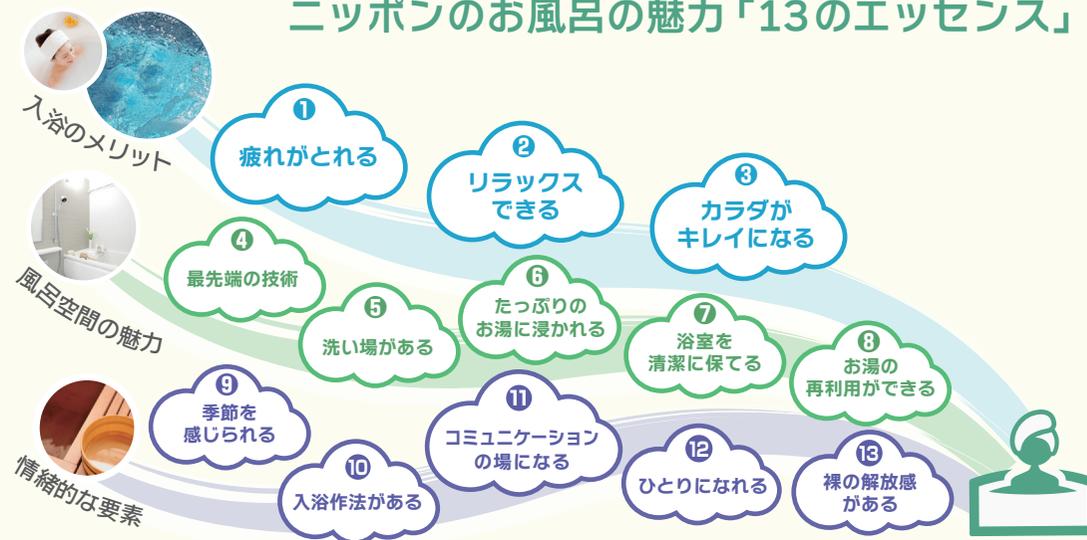
各社の商品を一堂に集め、個々のこだわりをひとつひとつ  
確認していった結果、そこから見えてきたのは、  
ニッポンのお風呂の“もてなし力”でした。

お湯を浴びる、お湯に浸かる、体を洗う、空間を楽しむ、浴後にくつろぐ。  
一連の時間をいかに快適に過ごしてもらえるか。  
さらには、お風呂掃除をいかにラクにすることができるのか。  
そのために必要なアイテムはなにか。  
現代の浴室はそうした発想から生まれた細やかな心配りに満ちています。

ニッポンのお風呂はもはやお湯を溜めるだけの空間ではなく、  
高度な技術と知見が集結した創造的な空間なのです。



## ニッポンのお風呂の魅力「13のエッセンス」



# 「13のエッセンス」の中から、5要素に着目！ 見えてきたのは、お風呂空間への多様なニーズに着目し 進化をつづける「ニッポンのお風呂」の“こだわり力”。

ニッポンのお風呂の魅力 13のエッセンスから、今回は5つの要素に着目しました。

- (1) 最先端の技術
- (2) 洗い場がある
- (3) たっぷりのお湯に浸かれる
- (4) 浴室を清潔に保てる
- (5) お湯の再利用ができる

この5つはニッポンのお風呂の持つ特筆すべき魅力です。

浴槽でお湯に浸かり、洗い場で体を洗う。

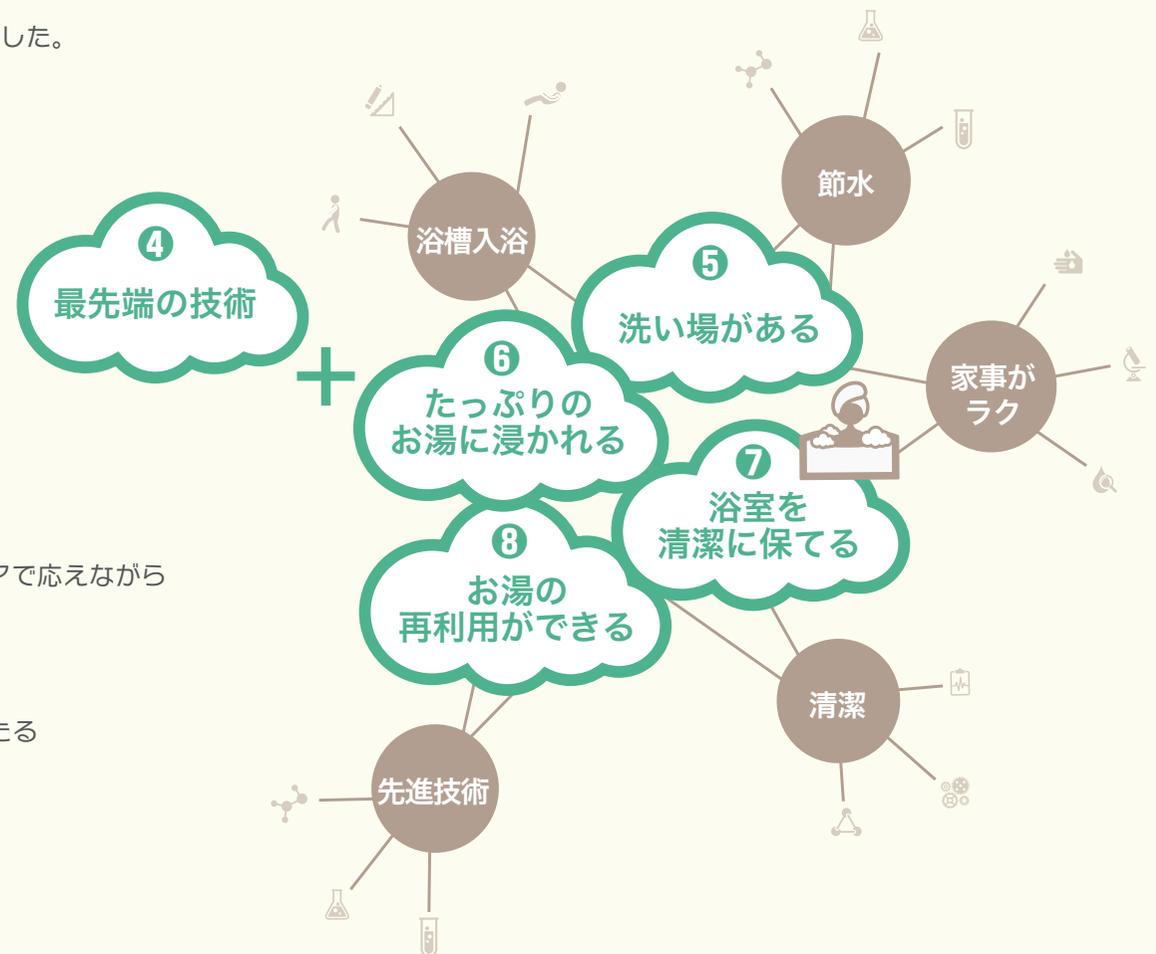
その基本的なスタイルは今も昔も変わりません。

しかし、水資源に対する意識や住宅環境の変化など、  
変わりゆく時代の中で、お風呂に求められる要素も少しずつ変化しています。

ニッポンのお風呂は、時代のニーズに対して、これまでも様々な技術とアイデアで応えながら  
その快適さを向上させ、進化をつづけてきました。

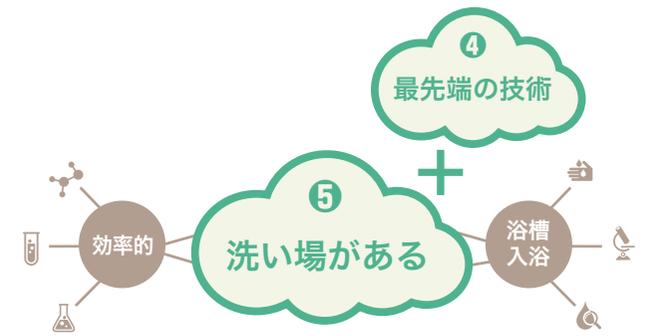
今回、私たちはその歴史をひも解きながら“お風呂の今”に迫ってみました。

最先端の技術によって裏付けられた、ニッポンのお風呂空間の細部にまでいたる  
“こだわり力”をご確認ください。



# 洗い場のあるお風呂がどこでも簡単に。 日本で生まれたユニットバス

日本では公衆浴場の時代から「浴槽+洗い場」というスタイルが定番です。東京オリンピックの年に誕生したユニットバスは、時代のニーズにびたりとハマリ、瞬く間に広がっていきます。あれから50年。ユニットバスは目覚ましい進化を遂げています。機能はもちろん、デザインも多様化し、洗い場にも変化が生まれています。果たしてその変化とは？



1964年

東京オリンピックの  
ホテルに採用された  
ユニットバス※1

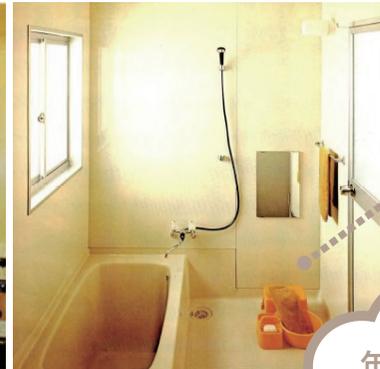
1966年

標準化を実現  
した集合住宅  
用タイプ※2



1977年

北海道からはじ  
まった戸建住宅  
用バスルーム※3

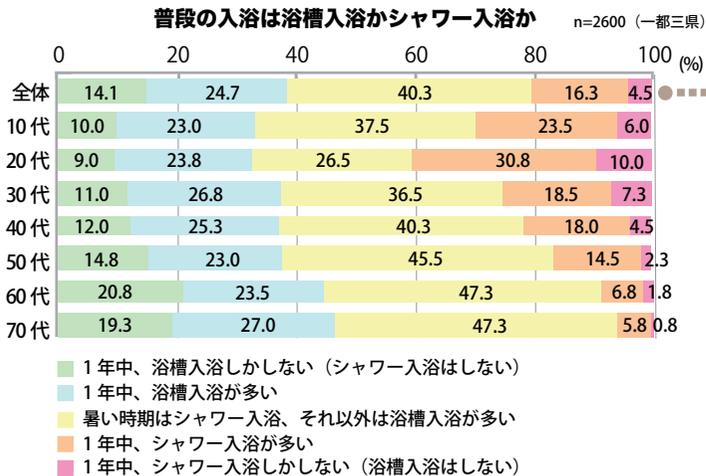


発展・普及する  
きっかけとなった  
日本初<sup>(注)</sup>のユニットバス

(注) JIS 規定による

年々進化！

時は1964年。東京オリンピックに向けて急ピッチで建設が進められたホテルのために、短期間で設置できるユニット化（プレハブ化）されたお風呂「ユニットバス」が発案・採用されました。工期短縮、軽量化、そして完成後のメンテナンスもしやすいことから、やがて到来したマイホーム時代の波に乗ってユニットバスは広く普及していきます。



1年中、お湯に浸かる  
ことが多いのは約4割。  
夏場を除けば、約8割に！

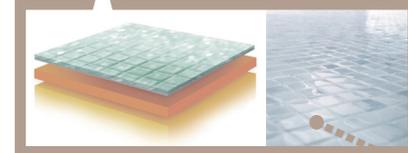
浴槽入浴が  
定番の日本人



2000年代には新しい技術が次々と投入され、新たなフェーズに突入。中でもカラリ床<sup>(※4)</sup>は、床の表面に多数の溝を刻み、水滴をできるだけ残さず図ベりにくい床を実現。気密性が高いことからどうしても乾きにくかったユニットバスに大きな革命をもたらしました。

その後も畳のようなやわらかさ（ソフトカラリ床<sup>(※5)</sup>）、W断熱構造によるヒヤッと感の軽減、滑りにくさの実現（ほっカラリ床<sup>(※6)</sup>）など、洗い場の快適性はますます向上しています。

また、近年はモザイクタイルのような床などデザイン性も進化しています。

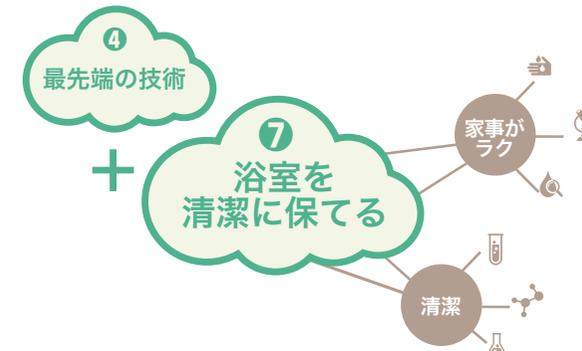


2000年代  
段差もなく、やわらかく  
ヒヤッとしない床など  
機能性もデザイン性も向上  
（ほっカラリ床<sup>(※6)</sup>）

(出典) 「現代人の入浴事情 2015」※12

# お風呂掃除をラクにするテクノロジー。

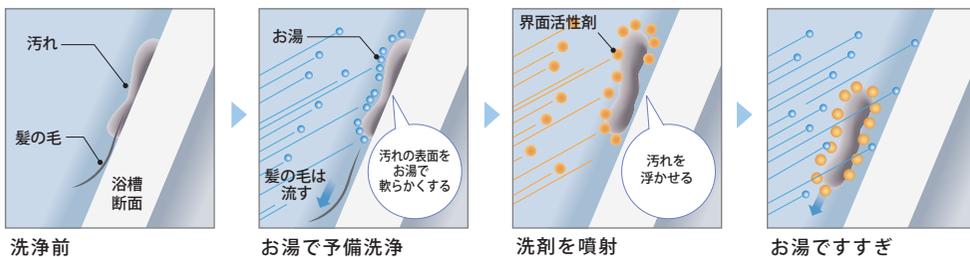
汚れやすい浴室。毎日ごしごし洗うのは手間も時間もかかります。年齢によっては体への負担も心配です。現代は共働きの家庭も多く、家事における“時短（時間の短縮）”が求められています。自動で洗浄してくれる浴槽。泡の力でこすらず落とす、さらに防カビなどの効果がプラスされた浴室用洗剤。浴室を清潔に保つための新しい技術をご紹介します。



お風呂を自動洗浄

洗浄ノズルからお湯と洗剤を噴射して、浴槽のすみずみまで洗います。(おそうじ浴槽※7)

「お風呂掃除は手間がかかるし体にも負担がかかる」という声を受けて開発されたのが、スイッチひとつで自動洗浄してくれる浴槽です。初めにお湯を噴出して汚れをふやかし、そこに洗剤を複数回噴射、最後にお湯ですすぎ洗いをしてきれいにします。あらかじめお湯の力で汚れをやわらかくするのがポイントです。洗浄後は自動的に排水栓が閉まり、お湯はりがスタートします。



注)「おそうじ浴槽」には、黄色のバスマジックリンのみ使用できます。「防カビプラス」「除菌消臭プラス」「アロマ消臭プラス」のバスマジックリンは使用できません。  
注) お湯はりと連動させる場合は対応熱源機が必要です

泡の力で浴槽の汚れをこすらず落とす。さらに機能をプラス！（バスマジックリン※8）

+ 除菌消臭

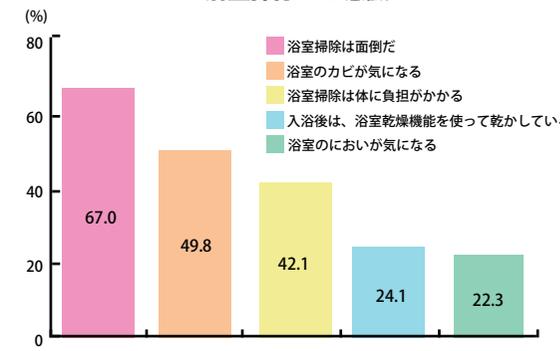
+ 防カビ

+ アロマ

なるべく手間を減らしたいという声は、浴室用洗剤にも反映されています。「泡の力でこすらず落とす」を特徴としたスプレータイプの浴室用洗剤は長年支持されており、近年ではノーマルの他に、防カビ、除菌消臭、アロマ消臭など高付加価値をもったタイプが登場しています。

これらは浴槽の汚れの他、ピンク汚れや、壁の汚れなど、浴室内のさまざまな汚れを視野に入れており、手軽にできる浴室の清潔向上にひと役買っています。

浴室掃除への意識



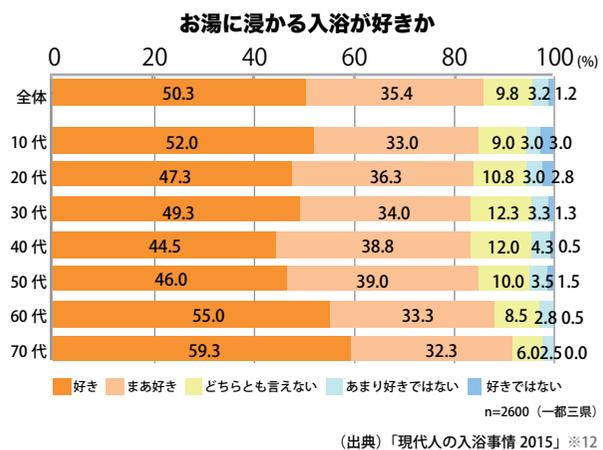
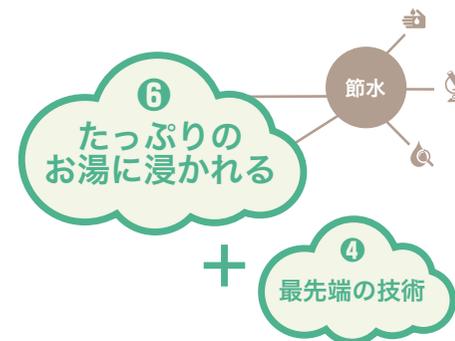
浴室掃除に対して多くの人が「面倒」「体に負担がかかる」と考えています。

n=2,587【浴室がある人】  
(浴室掃除は、最後に入浴した人がするようにしているのみ n=2,110【浴室がある且つ同居者がいる人】)

(出典)「現代人の入浴事情 2015」※12

# 少ない湯量で満足感のある入浴ができる。

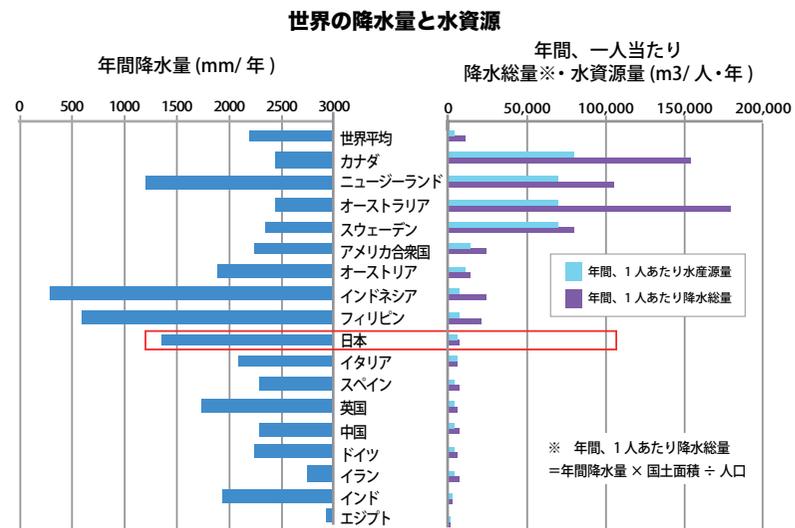
お湯に浸かることが好きな人は 8 割（東京ガス都市生活研究所データ）。水資源が豊富に思えるけれど、実は日本の水資源は潤沢ではありません。ひとり当たりの降水量は、世界平均の3分の1程度（国交省データ）。そのような環境を節水技術や節水意識でカバーしているのです。少ないお湯でもしっかり温まる、そんな浴槽も生まれています。



日本人の約8割の人が、お風呂好き

日本人は無類のお風呂好きとして知られていますが、実際に日本の入浴事情を調査したところ、「入浴が好きか」との問いに8割前後の人が「好き、まあ好き」と答えました。

男女別に見ると「好き」の回答率は女性の方が高く、特に10代では男女の差が見られたものの、「好きではない」と答えた人は総じて少なく、多くのお風呂好きであることがわかります。また、「お湯に浸かる入浴が好きか」との問いにも9割近くの人が「好き、まあ好き」と答えており、「入浴が好き、まあ好き」の回答を上回りました。近年はシャワー入浴派が増える傾向にありますが、たっぷりのお湯に浸かることの気持ちよさは多くの人が実感しているようです。



日本の水資源は意外と少ない

私たちは日ごろ水に不自由することがないため、日本は水資源が豊富だと思っている人が多いようです。しかし、日本の地形は急峻で短い河川が多いため、降った雨の多くが短時間のうちに海に流出してしまうなど、降水量が多い割に水資源が少ないのが実態です。水を限りある資源と認識し、有効に使うことが求められています。

浴槽のお湯を循環させて快適性+節水を実現！(アクアフィール※10)



例えば、浴槽内にベンチを設けることで、新たなくつろぎの姿勢を生みながら満水容量を削減。また、浴槽のお湯を循環させて肩湯にすることで、少ない湯量で体の芯まで温めるなど、少ないお湯でもたっぷりの湯に浸かっている満足感を得られるよう、浴槽にもさまざまな工夫が為されています。

(出典) 国土交通省 水管理・国土保全局 「平成26年度版 日本の水資源について第1章 参考資料」より

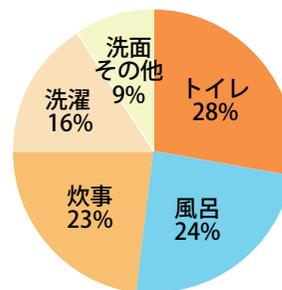
# お湯の再利用で、ムダを省いて快適入浴。

日本人の節水意識は年々向上しています。お風呂の残り湯の再利用はすでに定番となりつつあります。ムダにしない意識は、排水のついでに排水口をきれいにしてしまうというユニークな技術としても実を結んでいます。

近年はエコロジーの観点から節水の意識も高くなり、内閣府の調査によると節水している人の割合は 8 割以上にのぼります。また、日本は水道管からの漏水防止対策が進んでおり、有効率(給水量から無効水量を除いた水量)は 9 割にも達しています。世界でも類を見ないほど漏水が少ないのです。水資源が決して潤沢とはいえない環境の中、高度な水道インフラや節水意識などの広がり、節水機器の開発や普及により、日本の水資源は守られています。



目的別家庭用水使用量の割合 (平成 18 年度)



家庭用水の利用割合、お風呂は 2 位

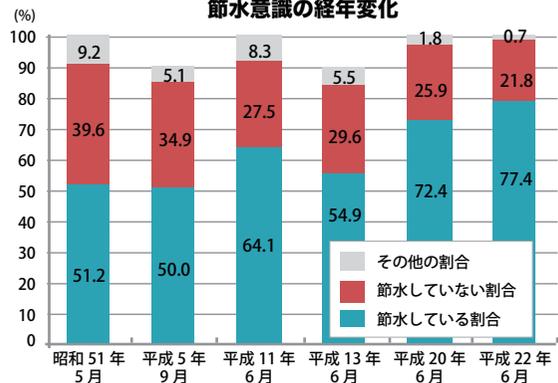
家庭で使われる水の利用割合を見てみると、トイレが約 28%、風呂が約 24%、炊事が約 23%、洗濯が約 16%となっており、お風呂は約 1/4 を占めています。浴槽に溜めたお湯を有効に活用するため、洗濯や掃除に使うなど再利用している人も多いようです。

(資料) 東京都水道局資料

節水意識は年々高まっている

最高レベルの漏水防止対策

節水意識の経年変化



(出典) 内閣府世論調査

世界主要都市の漏水率

マドリード (スペイン・H18)	12.30 %
ロサンゼルス (アメリカ・H21)	9.00 %
シドニー (オーストラリア・H21)	8.20 %
ソウル (韓国・H20)	6.29 %
パリ (フランス・H20)	5.00 %
東京 (日本・H22)	2.70 %
ニューヨーク (アメリカ・H20)	1.80 %

注) 都市により調査年は異なる。調査年については括弧内参照

(資料) 東京都水道局資料

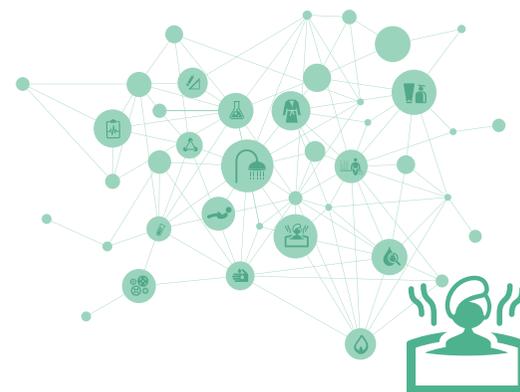
浴槽の残り湯を利用して排水トラップ内にうず流を発生させ、そのうず流の力で汚れを付きにくくした排水口は、水資源の再利用で掃除の手間を減らすというユニークな技術です。



排水時の水流を利用して排水口のごみをまとめてくれる!  
(くるりんポイ※11)

※イラストはイメージです。

# 5つの要素を深掘りして見えてきたもの。 日本独自のお風呂空間（洗い場＋浴槽）での 快適性はもちろん、家事ラク、節水等の ニーズにも対応する徹底した“こだわり力”!



最先端の技術、洗い場がある、たっぷりのお湯に浸かれる、浴室を清潔に保てる、お湯の再利用ができる。  
5つの要素を、現在のお風呂事情や水資源の状況と照らし合わせながら考えてみました。  
いかがでしたでしょうか？

欧米ではバスタブにお湯をはった場合もバスタブ内で髪や体を洗います。  
そもそも“洗い場”という概念がないのです。

一方、日本で“お風呂”と言ったら、洗い場で髪や体を洗い、たっぷりのお湯に浸かってリラックス。  
そんな一連の流れを思い浮かべる方が多いのではないのでしょうか。

汚れた空間ではリラックスできませんし、そもそも水がないことにはお風呂は成り立ちません。  
日本独自の風呂文化を維持するためにも、清潔な浴室、節水や水資源の再利用は重要です。  
日本では、それらが最先端の技術と快適さへのこだわりで支えられています。

今後も時代とともに求められる要素は変化していくことでしょう。  
そして、その都度新たな技術が生まれ、ニッポンのお風呂はその“こだわり力”によって、  
より便利でより快適に進化をつづけるのではないのでしょうか。

わたしたち風呂文化研究会は、これからもニッポンのお風呂について考えつづけてまいります。

風呂文化研究会 一同

# 注釈一覧

## ※1,2,3 TOTOより提供

### ※4 「カラリ床」(TOTO)

水滴を残さず乾きやすい浴室の床材

### ※5 「ソフトカラリ床」(TOTO)

ひざをついても痛くない素材を使ったカラリ床

### ※6 「ほっカラリ床」(TOTO)

W断熱構造でヒヤッと感をなくしたカラリ床

### ※7 「おそうじ浴槽」(ノーリツ)

スイッチひとつで浴槽洗浄からお湯はり、保温までできる浴槽

### ※8 「バスマジックリン」(花王)

スプレータイプの浴室用洗剤

### ※9 「エコベンチ浴槽」(LIXIL)

ベンチを設け満水容量を削減した浴槽

### ※10 「アクアフィール」(LIXIL)

首から肩にかけてやさしいお湯をまとうような新感覚の肩湯

### ※11 「くるりんポイ」(LIXIL)

お湯を抜くたび勝手にきれいにしてくれる排水口

### ※12 都市生活レポート「現代人の入浴事情 2015」(東京ガス)

1都3県に住む人々の、入浴に関する意識と実態をまとめたレポート

# 風呂文化研究会

代表：東京ガス株式会社

会員：内野株式会社

大阪ガス株式会社

花王株式会社

株式会社サザビーリーグ

アイシーエルカンパニー

TOTO 株式会社

株式会社ノーリツ

株式会社バスクリン

パナソニック株式会社

株式会社 LIXIL

風呂文化研究会 WEB サイト

<http://www.toshiken.com/bath/>

2016年3月発行